

# 第10回 安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会

日時：令和8年2月19日（木）

午後5時30分から午後7時まで

会場：安曇野市豊科交流学習センターきぼう

## 次 第

### 1 開 会

### 2 県教育委員会あいさつ

### 3 新構成員 自己紹介

### 4 会議事項

- (1) 第9回安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会まとめ
- (2) 今年度の検討状況と来年度の検討内容
- (3) 池田工業高校定時制の紹介
- (4) 安曇養護学校高等部あづみ野分教室の紹介
- (5) 学びのイメージについて

### 5 その他

次回の予定

【日程】 （調整中）

### 6 閉 会

## 新校再編実施計画懇話会開催要綱

### (目的)

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」(以下、「懇話会」という。)を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条例により設置された附属機関ではないものとする。

### (会議事項)

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- (1) 学校像、教育方針等に関する事
- (2) 校地・施設・設備等に関する事
- (3) 管理運営等に関する事
- (4) 教育内容等に関する事
- (5) その他、県教育委員会が必要と認める事項に関する事

### (構成員)

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者(校長、教職員等)、地域の代表(自治体関係者、産業界の代表等)、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

### (開催期間)

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

### 附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会構成員名簿

令和8年2月時点

◎座長 ○新規

(敬称略)

	区分	氏名	所属等	役職等
2	自治体	宮澤 達	池田町	副町長
3		橋渡 勝也	安曇野市教育委員会	教育長
4		山崎 晃	池田町教育委員会	教育長
5	産業界	高橋 秀生	安曇野市商工会	会長
6		栗原 裕	J Aあづみ	総務開発事業部長
7		宮崎 鉄雄	池田町商工会	事務局長
8		傳刀 勇	J A大北	総合企画管理課長
9	学識経験者	◎村松 浩幸	信州大学教育学部	教授
10	地域	斉藤 岳雄	有限会社 斉藤農園	専務取締役
11		石井 克則	黒田精工株式会社	専務取締役・工場長
12		深澤 大輔	株式会社 大王（大王わさび農場）	代表取締役
13		斎藤 政一郎	松本地域振興局	局長
14		柳原 健	北アルプス地域振興局	局長
15	同窓会	笠井 明	南安曇農業高等学校同窓会	同窓会長
16		山崎 完好	穂高商業高等学校同窓会	同窓会長
17		宮澤 敏文	池田工業高等学校同窓会	同窓会長
18	P T A	北川 昭一	南安曇農業高等学校 P T A	P T A 会長
19		鷺澤 恒夫	穂高商業高等学校 P T A	P T A 会長
20		小山 恵梨香	池田工業高等学校 P T A	P T A 会長
21		小松 公平	安曇野市 P T A 連合会	顧問
22		小澤 誠一	大北 P T A 連合会	会長
23	小中学校等関係者	臼井 慎詞	安曇野市校長会（豊科北小校長）	会長
24		工藤 美恵	北安曇校長会（池田小学校長）	会長
25		山岡 勝則	安曇養護学校	校長
26	再編対象校	○佐藤 ふわり	南安曇農業高等学校	生徒会長
27		○清水 廉	南安曇農業高等学校	生徒会副会長
28		井出 敦	南安曇農業高等学校	校長
29		今溝 秀雄	南安曇農業高等学校	教職員
30		○浅井 聖南	穂高商業高等学校	生徒会長
31		○西山 揺渚	穂高商業高等学校	生徒会副会長
32		三宅 浩一	穂高商業高等学校	校長
33		川上 忠志	穂高商業高等学校	教職員
34		○曾根原 宏紀	池田工業高等学校	生徒会長
35		○原田 大夢	池田工業高等学校	生徒会副会長
36		藤田 洋子	池田工業高等学校	校長
37	西山 浩介	池田工業高等学校	教職員	

【事務局】

学校名	氏名（役職等）
南安曇農業高等学校	（教頭） 本山 義治
	（教職員） 今溝 秀雄、加藤 慎一郎、水谷 通章、矢野 良
穂高商業高等学校	（教頭） 橋本 徹
	（教職員） 浅見 大輔、有賀 詩織、川上 忠志、酒井 慎也
池田工業高等学校	（教頭） 山口 秀樹
	（教職員） 佐藤 仁、西山 浩介、松井 一陽、矢原 和義

	氏名	所属等	役職等
県教育委員会	柳沢 勝美	高校教育課 高校再編推進室	主幹指導主事
	高橋 正俊	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事
	原 周一郎	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事
	貝野 宗司	高校教育課 高校再編推進室	主事
	宮沢 悠太	学びの改革支援課 高校教育指導係	指導主事

## 第9回 安曇野総合技術新校(仮称)再編実施計画懇話会まとめ (案)

<b>日時</b>	令和7年12月18日(木) 午後5時30分から午後7時		
<b>場所</b>	安曇野市豊科交流学习センターきぼう 2階 多目的交流ホール		
<b>出席 (敬称略)</b>	橋渡 勝也、山崎 晃、高嶋 雅俊(代理)、栗原 裕、宮崎 鉄雄、傳刀 勇、村松 浩幸、齊藤 岳雄、石井 克則、草間 英樹(代理)、柳原 健、笠井 明、山崎 完好、宮澤 敏文、林 明彦(代理)、鷺澤 恒夫、小山恵梨香、小澤 誠一、臼井 慎詞、山岡 勝則、蜜澤 健人、井出 敦、今溝 秀雄、山口日菜子、小林 優夏、三宅 浩一、川上 忠志、深澤 穂積、竹内 海翔、藤田 洋子、西山 浩介 (以上31名)		
<b>欠席 (敬称略)</b>	中山 栄樹、宮澤 達、高橋 秀生、深澤 大輔、斎藤政一郎、北川 昭一、小松 公平、工藤 美恵、大吉原 麗 (以上9名)	<b>傍聴</b>	会場 20名、報道 1社、オンライン 2名
<b>事務局</b>	南安曇農業高校	本山教頭、今溝教諭、川上教諭、矢野教諭、中田教諭	
	穂高商業高校	橋本教頭、浅見教諭、有賀教諭、川上教諭、酒井教諭	
	池田工業高校	山口教頭、佐藤教諭、西山教諭、松井教諭、矢原教諭	
	県教育委員会	原(多)主幹指導主事、高橋主任指導主事、原(周)主任指導主事、宮沢指導主事	
<b>会議事項</b>	(1) 第8回安曇野総合技術新校(仮称)再編実施計画懇話会まとめ (2) 各校からの報告 (3) 学びのイメージについて		
<b>当日資料</b>	・次第、開催要綱、構成員名簿、第8回懇話会まとめ、学びのイメージについて ・各校からの報告資料 ・会場配席図		

### 主な内容 (→事務局)

#### 会議事項

(1) 第8回安曇野総合技術新校(仮称)再編実施計画懇話会まとめ

○第8回懇話会まとめについて事務局から説明。【質問、意見なし】

○前回依頼があった「農林水産省のスマート農業等の推奨」について事務局から説明。

- ・調査したところ、高等学校専攻科の設置を推奨しているということはなかったが、現在、農林水産省では「農業の持続的な発展」を政策の柱の一つとしており、「農業教育高度化事業」として農業大学校等でスマート農業教育の設備支援を行い、新規就農者の育成に力を入れている。また、有機農業専攻(コース)を設置している農業大学校の支援もしている。
- ・スマート農業の実装に当たっては、スマート農業機械等を使いこなし、様々なデータを経営に活かすことのできる人材が必要とされており、農業高校等でスマート農業について体系的に学ぶことができる環境整備を農林水産省では進めている。

(2) 各校からの報告

ア 穂高商業高等学校 視察報告

○京都府立京都すばる高等学校

- ・商業科、情報科の専門学科校で、企業創造科、企画科、情報科学科の3科を設置。
- ・地域企業からの高い信頼と豊富な求人があり、高卒でも大卒同等の待遇を得られる事例がある。
- ・京都府や企業と連携し、全国で販売される商品の開発など実践的な学びを実施している。
- ・3年生の授業では、チームビルディングやチームマネジメントを重視した授業に取り組んでいる。
- ・情報科学科では、SQL(データベースを操作するための標準的な言語)を用いた実務的なデータベース演習や、手厚い指導体制が整備されている。
- ・課題研究では、企業や大学と連携した様々なゼミ活動を実施している。

○山形県立村山産業高等学校

- ・農業科、工業科、商業科の併設校で、安曇野総合技術新校のモデルケースとなる学校。
- ・地域連携コンソーシアムの取組として産業界が継続的に授業支援を行っており、3科が連携して日本酒を販売するプロジェクトを行っている。(農業: 酒米栽培, 工業: おちょこ等の製作, 商業: 商品化と販売促進)
- ・課題研究では、同じ時間に授業を設定して、学科を横断した講演会の実施や探究活動に取り組んでいる。また、各科の強みを活かして相互に製作を依頼する連携も行われている。
- ・再編に関わる知見として、設備はリースを活用、防災を意識した施設設計などが参考になった。

【質問】

- ・安曇野総合技術新校で取り入れたらよいと感じたことはあったか。

→学科間連携は当初は戸惑いがあるが、相互に理解が進むことにより、所属学科の良さを再確認できる。進路面での学科間競争を避けるため、各科の特色を活かせるような進路指導を行っている。失敗事例を前向きに捉え、学科連携で上手くいかない部分があっても次の成功にいかしている姿が印象的だった。

## イ 池田工業高等学校 視察報告

### ○岩手県立黒沢尻工業高等学校 専攻科

- ・工業技術科（機械・電気の2コース）、定員12名の少人数制で、旧工業化学科の施設を活用することで、短期間で開校することができた。
- ・地域、行政、企業が一体となった「北上川流域ものづくりネットワーク」が学校を全面支援している。企業経営者の講演や企業訪問、応募を前提とした企業実習、グループ研究から修了研究へと発展する実践的なものづくり教育等が体系的に組み込まれており、地元企業への人材供給を強く意識した構成となっている。

### ○山梨県立甲府工業高等学校 専攻科

- ・山梨県に高等専門学校がないという背景から、即戦力となる産業人材育成拠点として、専攻科創造工学科が設置された。
- ・校地内に専用校舎を新設し、県内企業と検討して導入した最先端設備が整備されている。
- ・全員が技能検定2級以上を目指す機電融合教育、企業実習を含むデュアルシステムや創造研究が段階的に構成され、複数企業で実習を行うことによる就職のミスマッチ防止を図っている。
- ・2年次の創造研究では、内定先企業と連携し、学校と企業が一体となった人材育成体制が構築されている。

### ○視察のまとめ

- ・新校をつくる際に重要なのは「地域企業、行政を巻き込んだ連携体制の構築」や「企業実習を軸としたキャリア教育」、「目指す人材像の明確化」、「地域ニーズに即した教育内容、施設設備の整備」の4点である。
- ・専攻科は地域産業を支える高度技能人材の育成の場として大きな役割を担う。
- ・安曇野総合技術新校においても、地域性と目的を踏まえた教育設計や、企業連携による探究的な学びの環境整備が重要である。

### 【質問】

- ・岩手県では専攻科が全国募集を行っているが、全国から集まった生徒達の進路先はどのようになっているか。  
→ほとんどの専攻科は現地に就職することを想定して全国募集をしている。募集要項の中に「その地域に就職を希望する者」という文言を入れている。他県から入学した生徒は寮に入って生活している。

## ウ 南安曇農業高等学校 地域連携活動報告

### ○安曇野オリジナル商品開発プロジェクト

- ・平成27年に安曇野市と連携協定を締結し、令和2年からの取組。安曇野市の特産品を活用し、生徒が1年間を通して商品開発を行い、業者が生徒の取組を見守り、採用商品を選定する。
- ・第1号商品「有明かぼちゃようかん」が採用され、地域で販売されている。
- ・その後も、次々と商品化されており、生徒は「開発→審査→採用」という実社会に近い経験を積んでいる。

### ○下水汚泥肥料の研究

- ・安曇野市の下水処理場「アクアピア安曇野」から年間約4,000トン排出される下水汚泥の有効活用を目的に研究を始めた。
- ・約7年前から栽培試験を重ね、汚泥が肥料として有効であることが確認できた。令和5年から犀川安曇野流域下水道事務所と協定を締結し、実証研究を引き続き行っている。
- ・水田試験では、3年連続で生育・分けつ数・収量ともに汚泥施用区が優れているという結果を確認し、「アクアピア1号」として肥料登録は完了したが、産業廃棄物扱いのため実用化には課題が残っている。
- ・長野県と本校の連携した取組が評価されて、今年9月に国土交通省から「循環のみち下水道賞」を受賞した。

### ○その他の取組

- ・これらの活動以外にも、堀金小学校とのリンゴ交流会、環境クリエイト科による建設事務所や建設業協会と連携した最先端測量技術の学習、保育園児との花の寄せ植え活動などにも取り組んでおり、地域からの評価が高く、生徒の自信と成長につながっている。
- ・外部と関わることで、生徒、教職員ともに、緊張感を持った学びが生まれている。
- ・今後も地域連携活動や卒業論文、農業クラブの活動を継続していきたい。

### 【意見・質問】

- ・農業クラブの生徒の保護者から「これまで積み重ねた研究を同じ環境で専攻科として継続したい」「探究を深めるために専攻科を2年間設けられないか」という想いを聞いた。南安曇農業高校は、第1回から高等専門学校の必要性を訴えているが、生徒が探究心を持ち続けていくため、これからの授業や学校のあり方を先生の立場からお聞きしたい。
- ・また、長野県では農業の担い手不足が深刻化しており、スマート農業と工業との連携を重視した取組には、農林水産省が支援する状況がある。中信地区には農業、工業分野の高等教育機関が少なく、専攻科設置を要望する声を非常に多く受け止めている。「生徒がもっと研究したい」という想いに対し、農業科の教員は、どのように受け止めているのか。  
→池田工業高校の専攻科の視察報告をお聞きして、地域の農業関連企業への就職等の課題はあるが、この地域には農業の研究機関のようなものが存在しない。新校での研究が、地域の農業のためになり、生徒の成長にもつながると考える。専攻科の設置については各方面の意見をお聞きして、考えていきたい。

### (3) 学びのイメージについて

#### 【事務局から説明】

- ・これまでの懇話会での意見や生徒の実態を踏まえて、学びのキーワード「安曇野が学びのフィールド」「探究拠点」「協働、挑戦」「地域貢献」「主体性」から「育てたい生徒像」「目指す学校像」を検討。
- 育てたい生徒像（3項目に集約）
  - ・『チャレンジ精神とコミュニケーション能力を備えた高い専門性をもつ生徒』  
…専門性に加え、地域連携、他学科連携を通じて、産業界が求める積極性やコミュニケーション能力を身につけた生徒を育てる。
  - ・『自らを大切に、多様な人々と協働できる、心豊かな生徒』  
…多様な人々との協働を通して、自己肯定感や自己有用感が高く、豊かな心を持った生徒を育てる。
  - ・『安曇野で学び、地域の課題解決に貢献できる生徒』  
…地域課題を通して探究的な学びに取り組むことで、未来の安曇野を支える生徒を育成する。
- 目指す学校像（3項目に集約）
  - ・『MIRAIにチャレンジする学校』  
…積極的に問題解決に取り組む意欲の育成や、挑戦することのできる環境を整備することで、成長を支援し、グローバル人材の育成に向けた学習機会を創出する学校を目指す。
  - ・『横断的な学びを通して、好きや自分のMIRAIを再発見できる学校』  
…横断的な関わり合いを通して新たな興味関心、好きを見出すことにより、自己実現、進路実現に結びつく学校を目指す。
  - ・『地域とともにMIRAIを創造する学校』  
…地域の探究拠点となり、安曇野地域と密着した学びの実践ができる学校を目指す。
  - ・「MIRAI」には、先進性、未来志向、小中学生への訴求力を意識した想いを込めた。
- 学校の中身（新校の特色あるカリキュラム、学びの融合、魅力づくり）
  - ・具体的な取組例を各校で検討を始めているところである。

#### 【意見】

- 育てたい生徒像について
  - ・生徒像が整理され、具体的で分かりやすくなった。「協働」の視点が一貫しており、魅力がある。
  - ・内容は良いが、3項目が並列に見える。最も重視する軸を明確にし、構造化してもよいのではないか。
  - ・社会が求める「考える力」や「乗り越える力」に合致している。打たれ強い人間を作る、そういう生徒が育っていけば良いと思っている。
  - ・「自らを大切に」は「自分らしさ」を強調する表現も検討してはどうか。
  - ・「自らの人生を舵取りし、民主的で持続可能な社会の作り手」のような将来、社会をつくる視点が生徒像にも入ると良いのではないか。
  - ・協働とコミュニケーションの重なりを整理し、「心の豊かさ」「倫理観」を明確にしてはどうか。
- 目指す学校像
  - ・北アルプス山麓は世界に開かれた地域であり「世界に誇れる」「尖った魅力のある学校像」を目指してほしい。
  - ・専門高校は「最後の学びの場」となる生徒も多く、人生を支える学校の気風、精神性が重要である。地域のエネルギーや魅力が学校像に流れ込むことを期待したい。

#### ◎座長まとめ

- ・3校から先進校視察の報告や地域連携の実践報告の共有が行われ、今後の具体的な検討に活かせる多くの知見が得られた。
- ・これまで検討されていた「育てたい生徒像」「目指す学校像」については、概ね方向性を確認できた。
- ・「この学校像で未来を創造する」という考え方は、これまでにない大きな一歩であり、グローバルな視点も含め、次のステップへ進む意義ある方向性である。
- ・今後は、事務局により意見を整理しながら、次の議論として、より具体的な検討段階へ進めていきたい。

#### ◎3年生の生徒代表から退任のあいさつ

- ・私は将来、商業科の教員として働きたいと考えており、新校で勤務できることをとても楽しみにしている。
- ・0から1を作り出すことはとても大変なことだと思った。様々な視点から意見を出し合って高めていく会議に参加できて、自分の大切な財産となった。
- ・子供たちの探究心は凄い。汚泥の研究をしている農業クラブの会長は命を注いでいるくらいに頑張っている。そのような生徒の探究心を最大限サポートできる学校を作り上げてほしい。

### その他

#### 【次回懇話会】

- ・日時 令和8年2月頃（予定）
- ・会場 （調整中）
- ・内容 学びのイメージ策定に向けた意見交換

# 「安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会」の開催経過とスケジュール

高校再編推進室  
(令和8年2月時点)

年度	月日	懇話会・会場	内容
令和5年度	令和6年 1月15日	第1回 安曇野市役所	【共通理解①】 ・懇話会の趣旨説明
令和6年度	5月24日	第2回 池田町交流センター かえで	【共通理解②】 ・全国の先行事例の講演 (鳴門教育大学 特命教授 藤村裕一 様) ・グループワークによる意見交換
	7月19日	第3回 安曇野市役所	【共通理解③】 ・生徒による学校・学びの紹介 ・全体での意見交換
	11月19日	第4回 穂高公民館	【目指す学校像・育てたい生徒像①】 ・公開授業の報告 ・地域・産業界からの提言① ・全体での意見交換
	令和7年 1月20日	第5回 穂高公民館	【目指す学校像・育てたい生徒像②】 ・地域・産業界からの提言② ・全体での意見交換
令和7年度	5月19日	第6回 穂高公民館	【目指す学校像・育てたい生徒像③】 ・地域・産業界からの提言③ ・これまでの意見交換からの学びのイメージの提案 ・グループワークによる意見交換
	7月23日	第7回 池田町交流センター かえで	【目指す学校像・育てたい生徒像④】 ・先行事例の講演 (福井県立坂井高等学校 校長 清水一広 様) ・全体での意見交換
	9月24日	第8回 安曇野市役所	【学校のイメージ策定①】 ・先行事例の講演 (山梨県立甲府工業高等学校 総括主任 永田典弘 様) ・学びのイメージ(育てたい生徒像)の提案・意見交換
	12月18日	第9回 安曇野市豊科交流 学習センターきぼう	【学校のイメージ策定②】 ・各校からの報告(視察報告、活動報告) ・学びのイメージ(目指す学校像)の提案・意見交換
	令和8年 2月19日	第10回 安曇野市豊科交流 学習センターきぼう	【学校のイメージ策定③】 ・学びの紹介 (池田工業高校定時制・安曇養護学校高等部あづみ野分教室) ・学びのイメージ(新しい学校の中身)の提案・意見交換

令和8年度

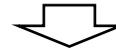
進捗状況に  
応じて開催

<意見交換項目>

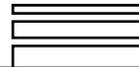
- 学校像、生徒像、新校の学び
- 設置課程、学科
- 活用する校地・校舎
- 募集開始年度
- 募集学級数 など



**教育委員会定例会で  
再編実施基本計画を決定**

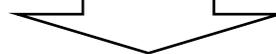


**統合事件案を県議会で同意**



新校準備委員会を中心に 校名、学校運営、地域協働、進路、生徒会、校歌・校章など細部にわたり検討 ⇒ 懇話会で意見交換

議会同意後、新校開校まで随時、年3～4回程度開催予定



**新校開校**

# 第10回安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会

## 学びのイメージ 検討手順

地域産業界からの提言（第4回～第6回）  
全国の先行学校の講演（第7回、第8回）  
生徒像や学校像の提案（第8回、第9回）

育てたい生徒像  
（目指す自分像）

目指す学校像

新しい学校の中身

新しい学校の形

学びのイメージ  
完成

### 【再編実施基本計画の策定】

- ・募集開始（開校）年度
- ・活用する校地・校舎
- ・設置課程・学科及び開校時に想定する募集学級数 など

懇話会の趣旨説明（第1回）  
全国の先行事例の講演（第2回）  
3校の学校・学びの紹介（第3回）

学びのイメージ策定（第9回～）

- ・特色あるカリキュラム
- ・学びの融合
- ・魅力づくり など

共通理解

### 【懇話会事務局 検討方法】

「学びのイメージ（キーワード）」⇒「育てたい生徒像」⇒「目指す学校像」⇒「学校の中身」⇒「学校の形」（目指す自分像）



# 学びを選び、塩尻で挑み、未来を拓く総合学科

この部分に当たる安曇野総合技術新校のアイデアについてご意見をいただきたい

## 目指す自分像

- 自身の軸を持ち、自ら課題を見つけ、価値を創り出す挑戦ができる自分
- 豊かな心を育み、他者を尊重し、互いを高め合いながら協働できる自分
- 粘り強く学び続け、自身の道を切り拓き、地元の未来を支える自分

## 目指す学校像

- 多様な学びを通じて、自分らしさを伸ばし、心豊かなウェルビーイングを実現する学校
- 地域を学びのフィールドとして地域との共学共創を目指す学校
- 生徒が主人公となり、社会とともに成長し続ける学校

## 学びの3本柱

### ① ワクワク！ 多彩な学び

人生を豊かにする学びがここにある

【表現・感性を学ぶ】

- ▶ 音楽・美術・書道・演劇などを通じた総合芸術、アーティストとの創造活動

【言語を学ぶ】

- ▶ フランス語、中国語、ハングルなどから始まる国際交流

【ICT活用を学ぶ】

- ▶ プログラミング、マルチメディア、データサイエンス

【生活を学ぶ】

- ▶ 農業、商業、家庭、福祉など人生を豊かにする科目

### ② ひろがる！ 未来と探究

教科の枠を越えて広がる

教科横断型“未来探究授業”

### ③ つながる！ 地域とキャリア

地域に開かれた学びの場で地域とつながる

【産学官民連携】

- ▶ 「シオジリ学」
  - ⇒ 地域課題解決型学習
  - 「起業家育成プログラム」
    - ⇒ 地域の未来を担う人材育成、事業創出
  - 「ワインバレー構想」
    - ⇒ 地場産業との連携

【小中高連携】

- ▶ 小中高一貫カリキュラム

【開かれた学び】

- ▶ ブドウ収穫体験、地元の専門家・農家による公開講座、車座の対話

### 学びを支える仕組み

のびやかに学ぶ環境

- ❖ 主体的な学びを促すゆとりある時間割と柔軟なカリキュラムで、多様な学び方を実現。深い学びを通じて確かな学力を育み、大学等進学へとつなげる。
- ❖ 地域交流や地域連携に対応できる快適で柔軟な学びの空間を整備する。

クラスを越えて出会える活動の機会、活動の場所がある～生徒が主人公「私は私の人生の当事者」～

- ❖ 異学年交流により多様な視点を育み、思いやりや協調性、自ら考え行動する力を育てる。
- ❖ 仲間と支え合い、失敗からも学び続けられる温かな雰囲気醸成する（職員サポーターズシステム）。



## 安曇野総合技術新校の学びのイメージ

### 【学びのイメージ(キーワード)】 (第6回懇話会から変更なし)

- ・「安曇野が学びのフィールド」
- ・「安曇野産業の探究拠点」
- ・「協働的に問題解決に粘り強く挑戦する人物の育成」
- ・「地域連携をとおして社会貢献のできる人物の育成」
- ・「主体的に元気よく何事にも前向きに取り組める人物の育成」

### 【育てたい生徒像】(目指す自分像)

#### ＜第9回懇話会で提案した事務局案＞ 育てたい生徒像

1. チャレンジ精神とコミュニケーション能力を備えた高い専門性をもつ生徒
2. 自らを大切に、多様な人々と協働できる、心豊かな生徒
3. 安曇野で学び、地域の課題解決に貢献できる生徒

#### 【事務局での検討内容】

- ・構造化することのメリットや課題について事務局で話し合い、やはり、並列する形が望ましいという結論に至った。(構造化はしない)
- ・項目には番号を付記しないことに修正。しかし、項目の中で生徒が豊かな心を育むことを重視し、関連する内容を最上段に掲げた。(1番目と2番目の順番を入れ替える)
- ・「自分」と明確にするという意見をいただいたが、「自ら」には、主体的、自発的な意味が含まれることから「自ら」としたい。
- ・「安曇野で学び」を「安曇野での学び」と修正して、地域課題を含めたさまざまな問題解決に主体的に取り組める生徒とした。

#### ＜第10回懇話会事務局案＞ 育てたい生徒像 (目指す自分像)

- ・ 自らを大切に、高い倫理観を兼ね備えた心豊かな生徒
- ・ チャレンジ精神とコミュニケーション能力を備えた高い専門性をもつ生徒
- ・ 安曇野での学びをとおして、さまざまな課題解決に貢献できる生徒

#### (解説)

- ・ 学校生活での学び合いや世代を越えた多様な人々との協働をとおして、自己肯定感や自己有用感などが高い心が豊かな生徒。また、これからの社会の情報化やグローバル化に対応するために人間性や倫理観を兼ね備えた生徒。(道徳性や人間性の育成)
- ・ 各科の専門分野の学びを身につけながら、他学科の仲間たちと接することで、自身の専門性を再確認できる。また、学校のスケールメリットを活かした生徒同士の交流や地域の人たちとの探究活動をとおして、産業界が求める積極性や国際感覚を含めたコミュニケーション能力を持つ生徒。(専門性や積極性の育成)
- ・ 安曇野を学びのフィールドとして、研究活動やプロジェクト活動のような探究活動をとおして、将来、さまざまな課題解決に取り組める生徒。(地域貢献や当事者意識の醸成)

## 【目指す学校像】

## ＜第 9 回懇話会事務局案＞ 目指す学校像

1. M I R A I にチャレンジする学校
2. 横断的なかかわりをとおして、「好き」や自分の M I R A I を再発見できる学校
3. 地域とともに M I R A I を創造する学校

## 【事務局での検討内容】

- ・生徒像と同じように、並列する形が望ましいという結論に至った。(構造化はしない)
- ・項目には番号を付記しないことに修正。しかし、項目の中で生徒が豊かな心を育むことを重視し、関連する内容を最上段に掲げた。(1 番目と 2 番目の順番を入れ替える)
- ・「好き」の「」は削除。

## ＜第 10 回懇話会事務局案＞ 目指す学校像

- ・横断的なかかわりをとおして、好きや M I R A I を再発見できる学校
- ・ M I R A I にチャレンジする学校
- ・地域とともに M I R A I を創造する学校

## (解説)

- ・専門的な学びを経て、課題研究などで他科とかかわりながら、未来を見据えた発展的な学びを実践する学校を目指す。その中で新たな興味・関心(好き)を再発見することで自己実現、進路実現に結びつける。(道徳性や人間性の育成)
- ・積極的に課題解決に取り組んだり、クラブ活動や資格取得などに挑戦できる環境を整備したりすることで自己成長を支援する学校を目指す。また、グローバル人材の育成に向けた学習機会を創出する。(専門性や積極性の育成)
- ・安曇野の探究拠点として、地域との研究活動などとおして、安曇野の未来を創造する社会に開かれた学校を目指す。(地域貢献や当事者意識の醸成)

## 【学校の中身】新校の特色あるカリキュラム、学びの融合、魅力づくり

## これまでの懇話会の意見を踏まえた新校での学びの具体例

- ・安曇野オリジナル商品開発プロジェクトなど、地域との連携活動
- ・課題研究の時間を 3 科同時間に設定
- ・全校生徒で田畑を耕すなど農作物を育てる取り組み
- ・基礎学力の定着、ビジネス探究、地域人教育などの学び
- ・デジタル・AI 時代を見据えた各種資格検定の取得 (IT パスポートなど)
- ・地域連携コンソーシアム (デュアルシステム・探究支援委員会) の構築
- ・連携コーディネータの配置による外部連携の強化
- ・海外研修旅行や短期留学制度などを用いた海外の工場や農場での実習
- ・高校卒業後に専門性を高めるための「専攻科」設置 など

## 懇話会での意見交換

「育てたい生徒像(目指す自分像)」や「目指す学校像」に沿った新校での具体的な「学校の中身」について、それぞれの立場からご意見をいただきたい。